



1 学期の終わりを迎えて

本日1学期が終了しました。1学期は異例づくめの学期でした。新型コロナウイルス感染症の影響から、4月13日から臨時休業に入り、6月1日(月)よりようやく授業が再開されました。その臨時休業の途中には、教育・学習相談日や分散登校を設定して、子どもたちの学校生活や学習ができるようにしてきましたが、この臨時休業による影響は大きく、行事や日課の変更、夏休みの短縮もされます。教科進度についてご心配された方もいらしたと思われませんが、授業時数を増やしたことなどで、どの学年も今学期学ぶべき内容を概ね終えることができました。

明日から8月18日(火)まで2週間の夏休みに入りますが、体力が落ちないように適度な運動をしたり、生活リズムが崩れないようにできるだけ規則正しい生活をしたり、そして何よりも健康と安全に十分気をつけたりしてほしいです。ご家庭でのご指導、よろしくお願いいたします。

校長講話(1学期終業式)

校長先生のお話では、まず、プロジェクトに1学期の風景や子どもたちの活動を映しながら1学期の振り返りをしました。

その後、「どじょうのおなら」というお話をしてくれました。

小学4年生の少年が、理科の観察でドジョウを飼育していました。あるとき、ドジョウのお腹から泡が出ていることに気づきました。

「あ!ドジョウがオナラをしている」そう思った少年は、さらに観察を続けて、記録をとりました。ドジョウは空気を吸うために、ときどき水面に浮かんできては、また潜ることがわかりました。空気中の酸素を胃や腸で吸収して、いらなくなった空気をお腹の穴から、吐き出します。それが、まるでオナラをしているように見えることがわかりました。

少年は、その結果をまとめて、クラスで発表しました。少年の発見にみんなは驚き、先生にもほめられました。このことがきっかけになって、その少年は動物に興味をもちつづけ、ついに一流の専門家になりました。その少年こそ、日本で一番歴史が古く、入場者数が日本一の動物園、東京にある上野動物園の7代目園長をされた中川志郎さんです。中川志郎さんは、小学5年生のときに将来は動物園で働く決心をしました。

なかがわ しろう
中川志郎さんは
しょう とき しょうい
小5の時、将来
どうぶつえん はたら
は動物園で働く
けっしん
決心をする。



おお こえ
大きな声で
あさ
朝のあいさつ

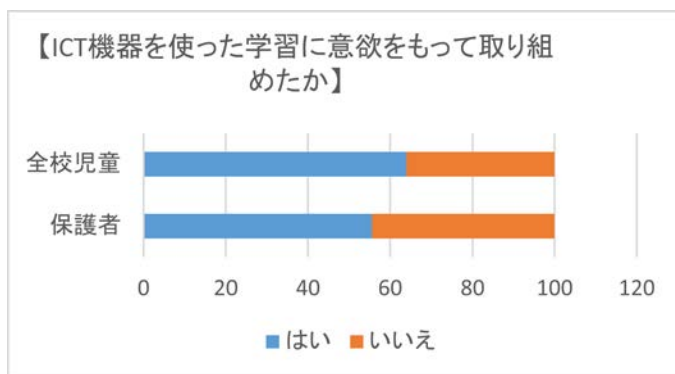
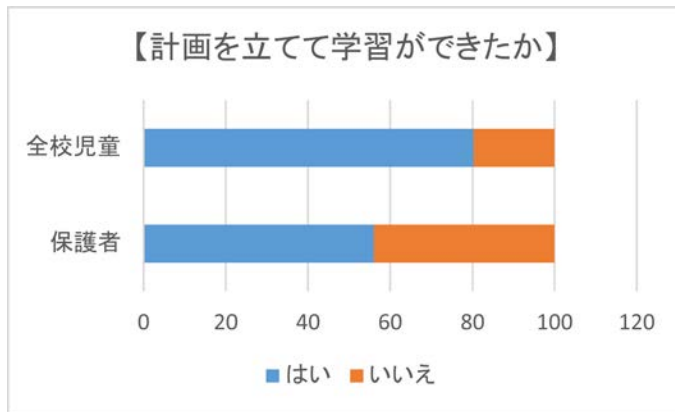
やさ おし
優しく教える
せいそう てほん
清掃のお手本



皆さんも、興味・関心を抱いたことをずっともち続けて、一生の仕事に結びつけられたらどんなに幸せでしょう。そんな出会いがこの夏休みにもあるといいですね。明日から14日間の夏休み、交通事故、コロナ、病気、ケガに十分注意し、楽しく充実した時間を過ごしてください。8/19に二学期がはじまります。その日にまた会いましょう。

学びの保障アンケートの結果より

「児童生徒の学びの保障に向けたアンケート調査」にご協力いただき、ありがとうございました。子どもたちや保護者の皆さまからの回答を集約し、今後の方策について考察をいたしました。これを基に今後、臨時休業となった際に、子どもたちの学びを止めない取り組みをしていきたいと思っております。



- ・高学年では自分で計画を立てて学習できた児童が多くいたが、低学年では、児童が計画的に進めることは難しい。
- ・復習だけでなく予習に取り組んでいた児童もいた。
- ・臨時休業中、児童だけで過ごしているご家庭も多くあり、一人では学習意欲の維持は難しいという声や学習を終えた後の過ごし方は間のびしていたという声がある。
- ・半数以上の児童が ICT 機器を使った家庭学習に意欲をもって取り組めたと回答。中でも e ライブラリーに取り組んだ児童が多くいたが、スマホだと画面が小さく目が疲れてしまう心配がある。
- ・オンライン授業に期待する声がある一方で、パソコンは親が在宅時に使用することになっている家庭からはオンライン授業導入に対しての不安の声がある。

【今後の方策として】

- ・臨時休業となった際、子どもたちが家庭での学習をスムーズに進めることができるために、少人数での分散登校などを継続して行うなど、子どもたちが絶えず登校できるための体制を考えておく。
- ・web カメラやスピーカーなどの整備、オンライン会議システムなどの新たな ICT 活用のための職員研修、e ライブラリーや動画視聴など、児童が端末を使って学習する機会を授業で設ける。
- ・自分の学びたいことを学ぶ「自学」を学年の実態に合わせながらすすめていく。
- ・未習のところを自分で学習するにはどのようにするとよいのか、家での予習の仕方を学んだり、予習したことを次時の学習につなげたりして、学習のサイクルを作っていく。
- ・授業では一斉授業だけでなく、小グループや個別で課題を持って追究する授業を今後も計画的に仕組んでいく。

新聞報道でご存じの方もいらっしゃると思いますが、長野県教育委員会学びの改革支援課が、新型コロナウイルス感染症の蔓延等により、県内の児童生徒が学校に通学できない場合に、自宅等での学習を支援すること等を目的とした授業動画や電子教材等をインターネット経由で配信するためのポータルサイトを8月1日付けで開設しました。動画は8月4日以降随時アップする予定です。

各家庭からは、PCの場合は、<https://manabisuke.airlibro.jp> へ

タブレットやスマホはこちらから ▶



【に礼っ子のようす】



晴れ間を見計らって、プールでの学習をしています。じめじめした陽気なので、プールの水が気持ちよいようです。歓声が校舎まで聞こえます。



7月の参観日は密集を避けるため、地区別に分散して実施しました。写真は4年生の小麦の脱穀。お家の方も一緒に昔の道具を使った脱穀の体験をしていました。



1年生は9日の参観授業のときに七夕飾りを作りました。おもいおもしろい願い事を短冊に書いたり、色とりどりの飾りを作ったりして、笹につるしました。願い事が叶うといいね。



7月6日～10日は歯と口の健康週間でした。給食の後に養護教諭が教室へ行き、歯磨きの仕方を指導しました。歯ブラシの向きや力の入れ方などを学びました。



7月8日に6年生は田辺花卉店さんや地域のボランティアグループ「花いちもんめ」さんと楡の木庭園に置くプランターづくりをしました。みんな積極的に作業に取り組み、50箱ほどのプランターを作って飾ることができました。



新型コロナ感染予防ため延期していた「放課後学習室」を7月8日から始めました。初日は30人ほどの児童が参加し、宿題や自分の課題に取り組みました。職員の外、ボランティアの寺林先生にお世話になっています。「みんなと一緒に学習するのは楽しい！」という声も。

心とからだの安心保障

7月29日（水）にスクールカウンセラーの沼田真理先生を講師にお迎えし、職員対象の学校保健委員会を開きました。今回の内容は、過日ご家庭の皆さまと児童からご回答をいただいた「児童の心と体のチェック票」を基に、休校することによって子どもに起こる変化や学校再開して分かった課題などを話し合い、沼田先生からは、再びコロナ禍に見舞われたときに大切なのは「つながる」ことだと教えていただきました。一人でまたは家族で悩むだけではなく、外部とつながることで気持ちを軽く、明るくすることが期待できるそうです。また、周りとのよい関係でつながるためのセルフケアについても教えていただきました。



新型コロナウイルス感染症拡大防止のための、長期にわたる臨時休業や在宅ワークなどの働き方の変化から、子どものみならず大人にもそれらが要因でストレスを抱えたり、悩んだりしている人が多いといわれています。さらには、ストレスの蓄積から面前DVが全国的に増えているという報告があります。

児童虐待は、態様によって4種類に分かれます。殴ったり、蹴ったり、激しく揺さぶることは身体的虐待と呼ばれます。虐待にあたり、家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にすることなどはネグレクト（育児放棄）になります。言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱いは心理的虐待です。中でも急増しているのが面前DV（ドメスティックバイオレンス）です。どちらかの親が子どもの前で、配偶者に暴力をふるったり、暴言を吐いたりする行為で、面前DVはこの心理的虐待に含まれます。

子どもの時に厳しい虐待を受けると脳が委縮し、脳の一部がうまく発達できなくなってしまう。そういった脳の傷を負ってしまった子どもたちは、大人になってからも精神的なトラブルを背負うことになるとも言われています。その行為が虐待にあたるかどうかは保護者の意図にかかわらず、子どもの視点で判断します。ご家庭におかれまして、子どもの視点から見て、何かお悩みや心配なことがありましたら、遠慮なく学校または下記の所へご相談ください。

仁礼小学校 246-2343 / 須坂市子ども課 248-9236 / 中央児童相談所 238-8010